

「ともに解決する」経営姿勢を意識し
お客様の要望、期待に応える！

(株)ウイズソル

代表取締役社長

外輪 純久



新年明けましておめでとうございます。旧年中は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年、石油・化学プラント等の大型定修工事への対応や設備老朽化に伴うスクリーニング検査の必要性が増した事により、多くの検査依頼を頂く事となりました。これに伴い、業績は前期を上回る水準を維持しました。健全性を確認するタンクの開放検査や、予防保全の観点から配管の腐食

減肉検査に対する要望が強まったように感じます。好調な業績とは裏腹に、働き方改革の観点からは、社員へ負荷がかかった事により、通勤災害を含めた労働災害の発生や品質トラブル、原子力規制委員会への報告義務となった計画外被ばくの発生など社員の労働災害が増加する事となり、この

技術開発面は新技術への取組課題も多く、開発計画のスピードが鈍化しています。超音波自動板厚測定装置「UDPシリーズ」のワイヤレスモデルは工事現場を着実に積み重ねて実用化が進んでいますが、タンク・配管設備の狭い場所では電波の届きにくい場所も存在するため、有線にも切替えられるような改良を進めています。ハイパワーガイド

波を利用した埋設配管のスクリーニング検査に関しても、施工・テストを重ね活動を継続しております。小型設計のマイクロドローンは複雑な構造をした石油精製設備等に適用され、高い客先評価を頂いています。現在、タンク側板等の肉厚が計測できる探触子ユニットを搭載したドローンのデモを実施し、顧客へのプレゼンを進めています。水浸UTについては、社内チューブ検査センターにおいて、熱交換器チューブやボイラチューブ等の内外

面の減肉状況を検出する自社開発装置を活用し、検査実績を積んでいます。こうした水浸UTや渦流探傷技術は客先ニーズも高く、今後さらに技術力を高めていきたいと考えています。一方、人材採用と育成にはまだまだ課題が残っていると感じています。昨年は仕事量が高水準で推移しましたが、現場の人員が増えている訳ではなく、どこかで検査員に無理をさせていると感じています。より安心・安全な社会づくりに貢献していくためにも人材採

用・育成を最優先課題として力を入れていく所存です。この春も新卒社員が23名入社する予定ですが、入社後約1カ月の間、本社で集合教育を実施したのち、各部署に配属し現場経験を積んでいく事となります。昨年の春入社した社員もシラバス教育時間を充足した上で秋期NDI試験に臨み、概ね高い合格率を収めました。現場で検査チームを引っ張る中堅・幹部社員向け教育も充実を図っており、リーダー研修等を実施しスキルアップを図っています。

この他、一昨年入社したベトナム人検査員5名は様々な資格取得に挑戦しており、現場の戦力として立派に育っています。非破壊検査のDX化については、「DX推進プロジェクト」を立ち上げてデータ分析の在り方を検証しています。

現在、取引先企業の皆様が持たれているデータと検査データを紐づけし、プラント設備の維持管理に貢献できるよう進めているところです。社内の勤怠管理や経費精算システム等も最新システムを導入し、社員の働き方改革に活かしています。

これらを継続して進めていく事で、本年も新技術による新規需要の創出とともに、コンプライアンス遵守を旨とした事業経営に引き続き取り組んでいく方針です。その上で、社名の由来でもある「ともに解決する」経営姿勢を社員一人ひとりが意識しながら、お客様の要望を把握し、期待に応えて参りたいと存じます。

また、最優先課題である人材育成にも努めていきます。最先端装置の開発や導入など充実を図っておりますが、操作してキズを検出し、診断していくのはやはり人です。人材のスキルア

ップは重要な課題であり、技術力向上は不可欠です。個々の社員がレベルアップしながら、高い壁を一つひとつ乗り越え続けた先に、目標とする売上高100億円の頂が見える事でしよう。

今年も年間を通じて大型の定修工事の計画が控えている事から、安定した経営が続くと見込んでいます。顧客ニーズに応えるための装置開発・設備投資を進め、顧客満足度向上を図ります。同時に社員への還元を進め社員満足度の向上を図って行きます。社員とその家族の幸福を願いながら、社員と共に大きな目標を共有して事業を進ませさせていき

たいと考えています。つきましては、本年も「品質」と「安全」を重視した検査業務に邁進していく所存ですので、引き続きご支援、ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。